

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウキウキさくらんぼ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 22日		~ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 17日		~ 2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育スペースが広く子どもたちがのびのびと過ごすことができる。	遊び、運動スペースとそれぞれに区分けし、各々切り替えがしやすく次の行動に移しやすい。	整理整頓を心掛け(5S活動)、職員・子ども達と共に利用しやすい環境作り心掛ける。
2	スタッフが充実している。	経験豊富なスタッフがいる。集団療育がメインではあるが、子ども達個々に合わせた療育にも対応できている。	保育士・児童指導員などのスタッフが専門スタッフ(リハ系・PT/OT/ST)のスキルを吸収し療育に活かしていく。
3	児童発達支援と放課後等デイサービスが同ビル内にあるので連携を取りやすい。	支援に切れ目がないのでスムーズに移行し成長に沿って一貫して療育を行うことができる。	合同イベントなどで幅広い年代と一緒に活動を行うことで自身の成長に気づく機会を与えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小さい子どもも多く昼寝をした場合のスペースの確保が難しい。	スペースが広く間仕切りが少ない。そのため死角が少ないことはメリットではある。その反面、他児に対し気が散りやすい状況が起る。	昼寝、カームダウン、個別療育のスペースの確保。
2	集団療育の為、コミュニケーション能力の向上は望めるが個別対応できる時間が少ない傾向にある。	児童の利用開始時間にバラつきがあり、遅く来所する児童には集団活動後の時間確保が難しい場合がある。	時間配分を明確にする。個別療育は他事業所で行っていることが多く、共有を図るために担当者会議やお互いに連絡を取り合っている。
3	スタッフ数が多いので情報共有が行き届かず支援方法の統一が難しいことがある。	ラインでの共有になるがグループが複数となり各自の活用方法の認識に差が出ている。	情報共有の場に悩んだときはその都度各自の考えを伝え合い話し合いを行っている。